

「お手紙」を通して、もっとなかよしになろう！

国語・特別活動 特別支援学級第2学年
加賀市立金明小学校

1 事例の概要

本学級は、2年生の児童が1名在籍しており、本児の入学に際して平成19年度に新設された。本児は1日のほとんどを座位保持椅子で過ごし、生活全般において支援や介助を必要としている。学習目標や課題の設定、また、学校行事への参加等については、6年間を見通した長期にわたるめあてと、体調や表情の変化を観察しながら、本児の興味・関心を大切に短期のめあてを立て指導にあたっている。

現在、言語による要求や意思の表出はまだ確立していないが、入学してからの学校生活の中において、周囲の人とのコミュニケーションの場は確実に広がっている。本児自身が「できること」を一つ一つ積み上げると同時に、周囲の人たちの理解を深めていくことは、学校生活の充実や自立した生活を送るためには欠かせないことであると考えた。そこで、国語科「お手紙」(アーノルド＝ローベール作)をもとに、学習の手立てを工夫し、読み物教材にふれさせると共に、温かい関わりの広がりを目指し、さまざまな教科やたくさんの人たちへと発展させる取り組みを実践した。

A-1 実態に応じた指導

2 実践内容

(1) 単元の目標

- 登場人物の会話のやり取りや会話文にふれることを通して物語を楽しむ。
(国語科における関心・意欲・態度)
- 登場人物の気持ちを考える。(読むこと)

(2) 指導上の工夫点

① 興味・関心を高める

物語「お手紙」を提示するにあたり、かえるくん、がまくん、かたつむりくんの靴下人形や場面絵を準備した。場面絵をセッティングし、人形を用いて登場人物に動きを付け人形劇のようにお話を進めた。読み聞かせだけでなく、視覚に訴え物語の場面設定をよりわかりやすく提示することにより、話の中に自然と入っていけるようにするとともに登場人物への愛着を高める効果を期待した。

② 理解を深める

物語には登場人物の会話文がたくさん出てくる。一つ一つの会話文には、かえるくんやがまくんの心の動きが込められている。物語を読み深め、二人に通い合う友情を感じ取るためには会話文はとても重要である。かえるくん、がまくんのさまざまな表情の顔シール(うれしい、悲しい、つまらない…)を用意し、それぞれの言葉から感じる気持ちを顔シールの中から選んで貼る作業を取り入れた。本児ができる「選択する」活動を生かし、言葉では表現しきれない本児の思いを表出させたいと考えた。

③ 操作しやすい教材教具

手に麻痺があり手指の不器用さが見られるが、学習への参加の仕方を工夫し、少しでも自主的、積極的に活動できる場面を考え、理解して自分ですることや繰り返し自信を持ってできることとして、日常的に取り組んでいるテープをはがしを活用した。具体的には、自分で選択したかえるくん、がまくんの言葉カードの両面テープをはがし、台紙に貼ることができるようにした。本文が絵本のように仕上がり児童が満足できるように教具の工夫を行った。

④ 人との関わりを広める

物語を読む場面では、担任以外の先生方に読んでもらったり、役割分担をしていっしょに読みだりする活動を楽しんだ。また、学習の発展として図書室での活動を取り入れ、日頃関わりが少ない図書館司書教諭に協力してもらいながら、図書室に親しむ機会を設けた。2階にある図書室には座位保持椅子のまま移動しなければならないため、利用する機会は少なく、人との関わりを広めるためのよい機会となった。

⑤ 他の学習活動への発展

交流学級で特別活動として授業実践を行った。母親の協力のもと、生まれてから今日に至るまでの児童の成長の様子を話してもらった。事前に聞いてあった友だちからの質問に答えながら、本児をより理解してもらい、もっと仲良くなるための授業を実践した。かえるくんががまくんに手紙を書いたように友だちに手紙を書いてもらい、その返事としてメッセージを入れたしおりを一人一人にプレゼントした。

また、11月の金明っ子フェスティバルでは、2年生の友だちといっしょに「お手紙」の朗読劇を発表した。発表の最後に、感謝の気持ちを込めて家族へ1行レターを贈った。

B-1 指導の工夫

3 指導の実際

配時	学習活動	教師の支援（・） 評価（○）
10	3. 大切なキーワードを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「 」のカードを用意し、本文の中に入れながら、かえるくんとがまくんのことばを完成できるようにする。 ・かえるくんとがまくんが仲良く手紙を待つ様子を感じるようにする。 ・登場人物の気持ちを、挿絵の顔の表情などをもとに考えられるようにする。 ・話し言葉や行動を一つ一つおさえながら、示した選択肢の中から登場人物はどんな気持ちなのかを考え、自ら選ぶ活動を取り入れる。 ・時間がかかっても、ヒントを与えながらゆっくり取り組めるようにする。 ○お話を楽しみながら聞いたり、登場人物の気持ちを考えたりしている。
10	4. かえるくん、がまくんの気持ちを考える。	

C-1 指導案(国語科)

C-2 指導案(特別活動)

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 日常的な活動を学習内容に生かすことで、自主的に自信を持って取り組むことができた。
- ② 児童の興味・関心を把握し、提示する教材教具を工夫することにより、学習意欲を高めることができた。
- ③ 「お手紙」を通して学習を発展させ、友だち、職員、家族、地域の人たちとの温かい関わりを深め、広めることができた。

(2) 課題

- ① できることやできそうなことを把握し、児童の実態に合った学習課題や目標を考えていく。
- ② 気持ちや意思を大切にして、自主的に学習を展開できる場面を少しでも多く取り入れていく。

D-1 実践をふり返って